2023 年国連水会議開催記念シンポジウム
遠藤和重ＵNCRD 所長による閉会挨拶

2023 年国連水会議開催記念シンポジウムの閉会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

国連水会議に「総理特使」として参加された上川（かみかわ陽子）議員、自治体のショーケースで熊本市の取組みを紹介された大西（一史かずふみ）市長をはじめ、ご登壇の先生方には、示唆に富むお話を数多く頂戴しましたことに厚く御礼申し上げます。

また、シンポジウムに共催頂いた外務省、在日オランダ大使館、国連広報センターの代表者ならびに関係者の皆様に対しまして、開催準備など多大なご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

（国連経済社会局担当事務次長のリ・ジュンフアから冒頭ビデオメッセージがありましたが、）国際連合経済社会局は、SDGs をはじめ、関連する重要テーマについて、政府対話や技術援助を所掌していることから、2023 年国連水会議の事務局を努めました。
この経済社会局の出先機関である私ども国連地域開発センターとしましては、世界的な水危機への認識を高めること、そして国連水会議での主な議論や会議成果を日本国内で共有することが有意義と考え、本日のシンポジウムを企画させて頂きました。

水は、気候変動、エネルギー、都市開発、食料、貧困など多岐にわたるテーマと密接な関係があり、その相互関係性は複雑であるが故に、これらの関係性を包括的に捉えることは容易ではありません。ご登壇された先生方からは、安全な飲料水と衛生へのアクセス、（拡大する）水需要への対応、（気候変動の影響に伴う）水害や渇水への対策など、各テーマの課題や解決策、今後の展望について、大変わかりやくお話しいただきました。参加者の皆様におかれましては、国連水会議の多岐にわたる議論や成果について、理解を一層深めることができたものと考える次第です。

国連水会議の目的は、SDGs を含む国際的な水関連目標・ターゲットの達成を促進することとされています。今年は、SDGs 達成に向けた折り返しの年ですが、（国連広報センターの根本所長から紹介されたように）ターゲットのうち順調に進んでいるのは１２％、その他は進捗が「不十分」、「行き詰まっている」、「後退している」と危機に直面しています。

SDGs の後半戦に向けて、国連水会議を開催することにより、「水に関する行動」と「SDGs 達成に向けた取り組み」、この２つの国際的な潮流により、大きなシナジー効果を生むことが期待されました。
本日は、私自身も含め、国連水会議に参加されなかった方も多数いらっしゃると思いますが、世界中

から約１万人が参加し、会議が盛り上がった様子が、十分に伝わったように感じられました。

後半のパネルディスカッション「水とローカル SDGs（－持続可能な都市の実現に向けて）」においては、関連する全ての SDGs の達成に向けて、グローバルとローカルを繋ぐ取組みや相乗効果、行政・企業・市民などパートナーシップによる活動価値の最大化、今後途上国を中心として日本の国際貢献に繋げていくため、現場レベルで水問題に取り組んでおられる先生方から、貴重なご提言を頂きました。

最後に、国連水会議事務局長を務めた　リ・ジュンフア（経済社会局担当事務次長）氏は、「2023 年国連水会議では、水の未来だけでなく、世界の未来に変化をもたらすために、決意あるグローバルコミュニティが結集した」と述べています。「水行動アジェンダ」には、（水危機にある世界から）水が確保された世界への変革を推進するため、各国政府などから 700 を超えるコミットメントが集まっています。日本においても、これら世界の状況を踏まえて、水問題の解決に向けた取り組みが、本日のシンポジウムを契機に加速していくことを期待し、また、ご出席者のますますのご健勝を祈念し、閉会のご挨拶とさせて頂きます。